

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成23年11月14日
【四半期会計期間】	第61期第2四半期（自平成23年7月1日至平成23年9月30日）
【会社名】	株式会社ホリプロ
【英訳名】	HORIPRO INC.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 堀 義貴
【本店の所在の場所】	東京都目黒区下目黒1丁目2番5号
【電話番号】	03(3490)4601(代表)
【事務連絡者氏名】	業務本部執行役員 吉田 正通
【最寄りの連絡場所】	東京都目黒区下目黒1丁目2番5号
【電話番号】	03(3490)4601(代表)
【事務連絡者氏名】	業務本部執行役員 吉田 正通
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第60期 第2四半期連結 累計期間	第61期 第2四半期連結 累計期間	第60期
会計期間	自平成22年 4月1日 至平成22年 9月30日	自平成23年 4月1日 至平成23年 9月30日	自平成22年 4月1日 至平成23年 3月31日
営業収入（百万円）	10,283	8,980	20,969
経常利益（百万円）	1,104	797	2,338
四半期（当期）純利益（百万円）	427	369	934
四半期包括利益又は包括利益 （百万円）	396	292	877
純資産額（百万円）	19,626	19,952	20,008
総資産額（百万円）	24,989	25,852	26,519
1株当たり四半期（当期）純利益 金額（円）	30.17	26.05	65.92
潜在株式調整後1株当たり四半期 （当期）純利益金額（円）	-	-	-
自己資本比率（％）	77.8	76.4	74.7
営業活動による キャッシュ・フロー（百万円）	36	485	1,744
投資活動による キャッシュ・フロー（百万円）	271	1,556	720
財務活動による キャッシュ・フロー（百万円）	277	351	382
現金及び現金同等物の四半期末 （期末）残高（百万円）	9,550	8,713	10,139

回次	第60期 第2四半期連結 会計期間	第61期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成22年 7月1日 至平成22年 9月30日	自平成23年 7月1日 至平成23年 9月30日
1株当たり四半期純利益金額 （円）	4.23	8.58

- （注）1．当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2．営業収入は消費税等抜きで表示しております。
- 3．第60期第2四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」（企業会計基準第25号 平成22年6月30日）を適用し、遡及処理しております。
- 4．潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1)業績の状況

当第2四半期連結累計期間における日本経済は、東日本大震災からの復興に伴い緩やかな回復基調にありましたが、欧米を中心とした海外経済の減速懸念により円高が進行するなど、先行きに対する不透明感が強まっております。

当業界を取り巻く環境も、企業の広告宣伝費の削減等の影響を受け、厳しい状況が継続いたしました。

このような状況のもと、当社グループは、次世代のスターの発掘・育成を図り、根幹であるタレントマネジメントを軸に、そこから派生するさまざまなビジネスを拡大させ、映像、肖像、音楽などに関わる多くの権利を保有する「コンテンツホルダー」として、人々の心に夢や感動を提供するエンターテインメントの創造に取り組んでまいりました。

この結果、当第2四半期の連結業績は、営業収入89億80百万円（前年同期比12.7%減）、営業利益7億25百万円（同28.0%減）、経常利益7億97百万円（同27.8%減）、四半期純利益3億69百万円（同13.7%減）となりました。

セグメント別の業績は以下のとおりであります（各セグメント別の金額はセグメント間の取引を含んでおり、連結合計の金額はそれらを消去した後の数値であります）。

出演事業においては、和田アキ子、片平なぎさ、榊原郁恵、井森美幸、山瀬まみ、宮崎美子、船越英一郎、鶴見辰吾など、存在感のあるベテラン勢が活躍する中、映画「セカンド・バージン」に出演した深田恭子、NHKドラマ10「下流の宴」に出演し、WOWOW連続ドラマ「人間昆虫記」の主役を演じた美波、テレビ朝日「バラ色の聖戦」に出演した芦名星、ブリジストンのCMや日本テレビドラマ「ブルドクター」に出演した石原さとみ、スカパー！のCMや映画「うさぎドロップ」主演の松山ケンイチ、映画「犬のおまわりさん」主演の中尾明慶、ミュージカル「スリル・ミー」にダブルキャストで主演した田代万里生と柿澤勇人、NTTドコモのCMやテレビ朝日「陽はまた昇る」に出演した池松壮亮、舞台「身毒丸」初主演の矢野聖人、NHKBSプレミアム「青い目の少年兵」主演の阿部力、映画「僕たちは世界を変えることが出来ない。But, we wanna build a school in Cambodia.」に主演し、数多くのCMに出演中の向井理など、若手タレントが幅広く活躍しました。

お笑いタレントでは、フジテレビ「笑っていいとも！」などに出演中のさまぁ〜ず、バナナマンなどが数多くのバラエティー番組で活躍しました。

この結果、当事業の営業収入は39億19百万円（前年同期比6.3%増）、営業利益は13億41百万円（同9.9%増）となりました。

映像事業においては、テレビ番組では、日本テレビ「誰だって波瀾爆笑」、テレビ朝日「クイズプレゼンバラエティ Qさま!!」、「お試しかっ!」などのレギュラー番組に加え、NHK-Eテレ「きょーこ先生の空想保健室」、単発番組では、日本テレビ「リアル×ワールド 143日 テレビディレクターが見た東日本大震災」、TBS「刑事シュート3」、フジテレビ「外科医鳩村周五郎8」、NHK-BS「ニルスのふしぎな旅」などを制作しました。

コマーシャルでは、「永谷園」、「ベルコ アヤナチュール」、「マルハン」、「日本ベーリンガーインゲルハイム/ファイザー COPD（慢性閉塞性肺疾患）啓発」、「ロート製薬 防風通聖散錠」、「イー・アクセス イー・モバイル」、「デサント マンシングウェア」など多くの作品を制作しました。

その他、配信分野では、携帯専用放送局BeeTV「教えてバナナマン」、GyaO!やWiiの動画配信コンテンツなどを制作しました。

この結果、当事業の営業収入は14億94百万円（前年同期比39.6%減）、営業利益は62百万円（同62.6%減）となりました。

音楽事業においては、CDアルバムでは、南波志帆初のフルアルバム「水色ジェネレーション」、かりゆし58のデビュー5周年記念ベストアルバム「かりゆし58ベスト」、尺八奏者・藤原道山が参加するクラシカルユニット「KOBUDO -古武道-」が5人のディーヴァとコラボレートした結成5周年アルバム「イツクシミ」、CDシングルでは、大島麻衣「Second Lady」、東南アジア出身のアニソンアイドル4人組ユニットSea Aのデビューシングル「DREAM SHOOTER」、映画「僕たちは世界を変えることが出来ない。But, we wanna build a school in Cambodia.」の主題歌となったRAM WIRE「歩み」などが発売されました。中でも、板野友美のセカンドシングル「ふいに」はテレビCMに起用され、オリコンウィークリーで初登場1位を獲得するなど注目を集めました。

DVDでは、May'nの2010年夏の全国ライブツアー「Phonic Nation」を追ったドキュメント映画「May'n THE MOVIE-Phonic Nation-」が3DブルーレイとDVDで発売されました。

この結果、当事業の営業収入は7億73百万円（前年同期比18.5%減）、営業利益は1億29百万円（同50.5%減）となりました。

公演事業においては、舞台公演では、1981年の初演以来、世代を越え愛され続けるブロードウェイミュージカル「ピーターパン」、成宮寛貴、鹿賀丈史豪華競演による秀作「太陽に灼かれて」、2008年の初演以来、毎年チケットが完売する驚異の観客参加型ライブエンターテインメント「ドラムストラック」、武田真治、藤原竜也に続く「身毒丸オーディション」でグランプリに輝いた矢野聖人の初舞台、蜷川幸雄氏銀河劇場初演出の「身毒丸」、世界で500万人を動員した大ヒットミュージカル「ロミオ&ジュリエット」、韓国で異例の大ヒット、数々のミュージカルスターを輩出した話題作「スリル・ミー」などを開催しました。

コンサート公演では、和田アキ子、榊原郁恵をはじめ、ホリプロ所属アーティストが出演する「あの鐘を鳴らすのはあなた基金Presentsチャリティーコンサート『song for you』」を天王洲銀河劇場にて開し、コンサートの模様を無料で配信しました。

この結果、当事業の営業収入は13億68百万円（前年同期比13.2%減）、営業損失79百万円（前年同期は1億円の営業利益）となりました。

小売事業においては、ファッション雑貨ショップ「ルートスター」やアクセサリーを専門に取り扱う「エクスペリー」にて、トレンドに敏感な女性をターゲットにした商品を、駅ビルを中心に全国で販売しました。

また、ベルギー生まれの世界的なカジュアルバッグブランド「キプリング」の日本総輸入販売元として、全国の主要都市の店舗や百貨店、通信販売などを通じて販売しました。

この結果、当事業の営業収入は14億40百万円（前年同期比6.9%減）、営業利益は16百万円（同52.0%減）となりました。

## (2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は前連結会計年度末と比較して14億26百万円減少し、87億13百万円となりました。

営業活動により得られた資金は4億85百万円（前年同期比4億49百万円増）となりました。資金の増加要因の主なものは税金等調整前四半期純利益の計上（7億44百万円）、売上債権の減少（6億72百万円）であり、資金の減少要因の主のものは法人税等の支払（6億71百万円）、仕入債務の減少（2億38百万円）であります。

投資活動により使用した資金は有価証券の取得（15億3百万円）等により15億56百万円（同18億28百万円増）となりました。

財務活動により使用した資金は主として配当金の支払により3億51百万円（同73百万円増）となりました。

## (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

## (4) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	58,940,000
計	58,940,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在 発行数(株) (平成23年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成23年11月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	14,182,800	14,182,800	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	14,182,800	14,182,800	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成23年7月1日～ 平成23年9月30日	-	14,182,800	-	4,583	-	4,619

(6)【大株主の状況】

平成23年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
有限会社青春社	東京都品川区上大崎2丁目4-23	6,425	45.3
BBH BOSTON - HEART LAND VALUE FUND, I NC. 620018 (常任代理人株式会社みずほコーポ レート銀行決済営業部)	789 N. WATER STREET M ILWAUKEE WISCONSIN 5 3202 (東京都中央区月島4丁目16-13)	520	3.67
日本トラスティ・サービス信託銀行株 式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	477	3.37
堀 威夫	東京都品川区	424	2.99
日本マスタートラスト信託銀行株式 会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	264	1.86
MORGAN STANLEY & C O. LLC (常任代理人モルガン・スタンレーM UFG証券株式会社)	1585 Broadway New Yo rk, New York 10036, U.S.A. (東京都渋谷区恵比寿4丁目20-3 恵 比寿ガーデンプレイスタワー)	251	1.77
福田 裕志	東京都新宿区	225	1.59
日本テレビ放送網株式会社	東京都港区東新橋1丁目6番1号	170	1.20
株式会社テレビ朝日	東京都港区六本木6丁目9-1	170	1.20
株式会社フジ・メディア・ホールディ ングス	東京都港区台場2丁目4-8	170	1.20
株式会社テレビ東京	東京都港区虎ノ門4丁目3-12	170	1.20
株式会社TBSテレビ	東京都港区赤坂5丁目3-6	170	1.20
計		9,440	66.57

(7)【議決権の状況】  
【発行済株式】

平成23年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 5,800	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 14,161,900	141,619	-
単元未満株式	普通株式 15,100	-	-
発行済株式総数	14,182,800	-	-
総株主の議決権	-	141,619	-

(注)「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が500株含まれております。また、「議決権の数」の欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数5個が含まれております。

【自己株式等】

平成23年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社ホリプロ	東京都目黒区下目黒 1丁目2番5号	5,800	-	5,800	0.04
計	-	5,800	-	5,800	0.04

2【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,639	6,013
受取手形及び営業未収入金	2,897	2,224
有価証券	4,199	4,702
商品	642	583
仕掛制作費	265	479
その他	1,086	1,095
貸倒引当金	71	67
流動資産合計	15,659	15,031
固定資産		
有形固定資産	2,527	2,739
無形固定資産	341	360
投資その他の資産		
投資有価証券	4,967	4,686
その他	3,163	3,180
貸倒引当金	140	145
投資その他の資産合計	7,990	7,721
固定資産合計	10,859	10,821
資産合計	26,519	25,852
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び営業未払金	1,692	1,451
短期借入金	1,350	1,350
未払法人税等	708	435
賞与引当金	155	240
役員賞与引当金	99	36
資産除去債務	0	-
その他	1,763	1,681
流動負債合計	5,770	5,196
固定負債		
退職給付引当金	101	107
役員退職慰労引当金	325	345
資産除去債務	96	94
その他	218	155
固定負債合計	740	703
負債合計	6,511	5,899

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	4,583	4,583
資本剰余金	4,619	4,619
利益剰余金	11,083	11,112
自己株式	5	5
株主資本合計	20,280	20,309
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	92	189
為替換算調整勘定	379	379
その他の包括利益累計額合計	471	568
少数株主持分	200	212
純資産合計	20,008	19,952
負債純資産合計	26,519	25,852

( 2 ) 【 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【 四半期連結損益計算書】

【 第 2 四半期連結累計期間】

( 単位 : 百万円 )

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成22年 4 月 1 日 至 平成22年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成23年 9 月30日)
営業収入	10,283	8,980
営業原価	7,363	6,442
売上総利益	2,920	2,537
販売費及び一般管理費	1,912	1,812
営業利益	1,007	725
営業外収益		
受取利息	45	39
受取配当金	13	16
受取保険料	30	0
その他	28	31
営業外収益合計	118	88
営業外費用		
支払利息	6	4
為替差損	6	3
貸倒引当金繰入額	4	4
その他	4	3
営業外費用合計	21	16
経常利益	1,104	797
特別利益		
店舗開店負担金収入	2	-
特別利益合計	2	-
特別損失		
投資有価証券評価損	399	29
出資金評価損	-	20
その他	121	2
特別損失合計	520	52
税金等調整前四半期純利益	586	744
法人税、住民税及び事業税	129	404
法人税等調整額	8	49
法人税等	138	354
少数株主損益調整前四半期純利益	448	389
少数株主利益	20	20
四半期純利益	427	369

【四半期連結包括利益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	448	389
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	29	97
為替換算調整勘定	22	0
その他の包括利益合計	52	97
四半期包括利益	396	292
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	375	272
少数株主に係る四半期包括利益	20	20

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	586	744
減価償却費	118	123
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	320	20
受取利息及び受取配当金	58	55
支払利息	6	4
売上債権の増減額(は増加)	137	672
たな卸資産の増減額(は増加)	122	154
仕入債務の増減額(は減少)	225	238
その他	53	18
小計	312	1,099
利息及び配当金の受取額	58	59
利息の支払額	5	4
法人税等の支払額	348	671
法人税等の還付額	19	3
営業活動によるキャッシュ・フロー	36	485
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の払戻による収入	300	-
有価証券の取得による支出	-	1,503
有価証券の売却及び償還による収入	208	700
有形固定資産の取得による支出	204	297
無形固定資産の取得による支出	8	49
投資有価証券の取得による支出	706	402
投資有価証券の売却及び償還による収入	124	0
保険積立金の解約による収入	597	-
その他	39	3
投資活動によるキャッシュ・フロー	271	1,556
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
配当金の支払額	268	339
その他	9	12
財務活動によるキャッシュ・フロー	277	351
現金及び現金同等物に係る換算差額	11	3
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	17	1,426
現金及び現金同等物の期首残高	9,500	10,139
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	32	-
現金及び現金同等物の四半期末残高	9,550	8,713

【追加情報】

当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用) 第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正により、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額 貸倒引当金繰入額 6百万円 給料 501 賞与引当金繰入額 61 役員賞与引当金繰入額 40 退職給付費用 7 役員退職慰労引当金繰入額 20	販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額 貸倒引当金繰入額 4百万円 給料 498 賞与引当金繰入額 68 役員賞与引当金繰入額 36 退職給付費用 26 役員退職慰労引当金繰入額 20

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年9月30日現在) (百万円)	現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成23年9月30日現在) (百万円)
現金及び預金勘定 7,050 取得日から3か月以内に償還期限の 到来する短期投資(有価証券) 2,500 現金及び現金同等物 9,550	現金及び預金勘定 6,013 取得日から3か月以内に償還期限の 到来する短期投資(有価証券) 2,700 現金及び現金同等物 8,713

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年9月30日)

配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月26日 定時株主総会	普通株式	269	19.00	平成22年3月31日	平成22年6月29日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間  
末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年10月29日 取締役会	普通株式	99	7.00	平成22年9月30日	平成22年12月3日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月25日 定時株主総会	普通株式	340	24.00	平成23年3月31日	平成23年6月28日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間  
末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年10月28日 取締役会	普通株式	99	7.00	平成23年9月30日	平成23年12月2日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)	合計
	出演	映像	音楽	公演	小売	計		
売上高								
外部顧客への売上高	3,418	2,457	944	1,556	1,541	9,918	365	10,283
セグメント間の内部売上 高又は振替高	270	15	3	20	5	316	36	352
計	3,688	2,473	948	1,577	1,546	10,234	402	10,636
セグメント利益又は損失 ( )	1,220	167	260	100	34	1,783	56	1,726

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、各種スクール運営事業、ファンクラブ運営事業、ライツ事業、劇場運営事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額  
の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利 益	金 額
報告セグメント計	1,783
「その他」の区分の損失	56
セグメント間取引消去	12
全社費用(注)	706
四半期連結損益計算書の営業利益	1,007

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)	合計
	出演	映像	音楽	公演	小売	計		
売上高								
外部顧客への売上高	3,659	1,490	773	1,365	1,433	8,721	259	8,980
セグメント間の内部売上高又は振替高	260	4	-	3	7	275	54	329
計	3,919	1,494	773	1,368	1,440	8,997	313	9,310
セグメント利益又は損失 ( )	1,341	62	129	79	16	1,469	86	1,383

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、各種スクール運営事業、ファンクラブ運営事業、ライセンス事業、劇場運営事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額  
の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利 益	金 額
報告セグメント計	1,469
「その他」の区分の損失	86
セグメント間取引消去	2
全社費用(注)	655
四半期連結損益計算書の営業利益	725

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	30円17銭	26円5銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	427	369
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	427	369
普通株式の期中平均株式数(千株)	14,177	14,177

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

	当第2四半期連結会計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年9月30日)
該当事項はありません。	

## 2【その他】

平成23年10月28日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 中間配当による配当金の総額・・・・・・・・・・99百万円

(ロ) 1株あたりの金額・・・・・・・・・・7円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日・・・・・・・・平成23年12月2日

(注) 平成23年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払を行います。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年11月8日

株式会社ホリプロ  
取締役会御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 吉村 孝郎 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 原井 武志 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ホリプロの平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ホリプロ及び連結子会社の平成23年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。